



ねらい

- お手伝いは、子どもの自主性や自己肯定感を育むだけでなく、子どもの自立を促す大切な家庭教育の機会です。年齢に応じたお手伝いの内容や進んで取り組む工夫を交流しましょう。
- お手伝いを通して小さいうちから「人の役に立つ喜び」を体験させてあげることが、「人にやってもらうことへの感謝」にもつながることを認識しましょう。

時間	内容	主な活動	留意点
例： 60分 00:10	はじめのことば           3つの約束確認           アイスブレイク  	「みなさん、こんにちは。ご多用のところ参加いただきありがとうございます。今日は、年齢に応じた“お手伝い”について、考えてみたいと思います。司会の〇〇です。よろしくお願いします。」  「この会は、ともに楽しく学び合い、みなさんで作り上げていくものです。誰もが『参加してよかった。』と思える会にするために、協力していただきたい3つの約束があります。」 ① <b>参加</b> 「積極的に話し合いに参加しましょう。全員が参加できるように、協力をお願いします。」 ② <b>尊重</b> 「お互いの意見や感じ方を尊重しましょう。他の参加者の意見を否定したり、自分の考えを押し付けたりしないようにしましょう。話したくないことは、パスしてもかまいません。」 ③ <b>守秘</b> 「子育ての交流ですから、個人情報に関わる内容も出てきます。同じ時間を共有する者同士の信頼関係のうえで行われる交流です。決して口外しないようにしましょう。」  「それでは、みなさん、少し緊張していらっしゃるようですので、心と体をほぐしリラックスしましょう。」 <b>バースデーチェーン</b> 「1月から誕生月の早い順に並び替えます。そのときに話してはいけません。ジェスチャーで、相談してください。それでは始めましょう。」	◇笑顔で親しみやすい言動に努めましょう。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">小道具として「お茶」やちょっとした「お菓子」があるとやわらかい雰囲気を出し、話も弾みやすくなります。 </div> ◇会を成功させるために、学習を始める前に参加者全員で「3つの約束」を確認しましょう ◇一人が話し過ぎないように、時間配分を考えながら、全員に話す機会を回すようにしましょう。 ◇「相手の目を見てうなずきながら聞くとか、相槌を打ちながら聞くなどとすると、話す人も嬉しいですね。」と具体的な聞き方を伝えると分かりやすいでしょう。 ◇子育て中の親として、家族に関わることも話題になりますが、自由に話してもらうためにも、信頼関係が大切であることを理解してもらいましょう。 ◇アイスブレイクとは、参加者の不安や緊張を氷にたとえ、その氷（不安や緊張）を溶かすという意味をもった活動です。  ◇15ページ「7 アイスブレイクに活用できる簡単なゲーム」 ①参照
00:40	ワークショップ	「それでは、緊張もほぐれたところで、お配りしたプリントの『こんなことはありませんか』をそれぞれお読みください。そして、自分だったらどうするかを簡単にメモしてください。」  グループディスカッション ＜ワーク1＞ 「みなさん、メモされたら、グループで一番誕生月の早い方から順に、自分だったらどうするかを交流しましょう。」  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">・お手伝いと何かを交換条件にする。 ・自分でやってしまう。 ・一緒に行く。 など</div>	◇「こんなことはありませんか」については、詳細な説明はせずに、読んでいただくとよいでしょう。  ◇自由に家庭の様子を話せるように、進行役の方が困っていることや悩んでいることを話すと、他の参加者も意見を出しやすくなります。

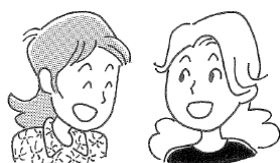
		<p>&lt;ワーク2&gt;                  「みなさん、それぞれ工夫した対応の仕方を出してくださいました。ではみなさんのご家庭では、どのようにお手伝いをさせていらっしゃるのでしょうか。うまくいったことや失敗したこと、心がけていることなどを交流しましょう。」</p> <p>・兄弟に、それぞれのお手伝いをさせている。                  ・親の期待が大きすぎて、叱ってばかりいた。など</p>	<p>◇グループごとに交流する際                  「自分にもできそう」「よい方法だなあ」などと思った意見は、ワークシートの「いいね！」の欄にメモを取るとよいことを、事前に伝えておきましょう。</p>
	意見が出ないとき	<p>「この資料を見てください。みなさん、様々な工夫をされていますね。これらの資料のような工夫はありませんでしたか。」</p>	<p>◇資料編「お手伝いをしてくれるための工夫」を配布</p>
00:10	ふりかえり	<p>「私も～のようなことがあって、失敗したことがありましたが、今日みなさんのご意見をお聞きして、人の役に立つ喜びを多く体験させていらっしゃると思いました。資料の『取組カレンダー』を使って、好きなシールを貼るなどして、家庭でも取り組んでみましょう。」</p>	<p>◇出された意見をまとめたり、結論を出したりする必要はありません。自分自身、こんなヒントをもらったというように、同じ立場で話すとよいでしょう。</p> <p>◇資料の「取組カレンダー」を準備し、配布しましょう。</p>
	おわりのことば	<p>「みなさん、今日参加されていかがでしたか。毎日、お子さんを目の前にして子育てに奮闘していらっしゃる皆様方にとって、少しでも気持ちが軽くなったり、何かヒントを得たりしていただけたならうれしいです。お話を伺っていて、本当にみなさんいろいろ工夫していらっしゃるなあと思いました。これからも、お困りのことがあれば、一人で悩まずにこのような機会を活用し、情報交換をしていきましょう。」</p>	<p>◇最後は、参加者の日頃のがんばりを認めることのみとし、指示やアドバイスをすることは避けましょう。</p>

こんなワークショップもできます！

P. 10

③ブレインストーミング 参照

内 容	主 な 活 動	留 意 点
ワークシ ョップ	<p>&lt;ワーク2&gt;                  「うまくいったことや失敗したことを、付箋に書き出してみましょう。」</p> <p>黄色の付箋 うまくいったこと                  青色の付箋 失敗したこと</p> <p>「表に付箋を貼りながら、発表しましょう。」</p>	<p>◇「その方法いいですね。」                  「わかります。そうですね。」などと、気持ちに寄り添う声かけをするとよいですよ。</p>



表の例

	3 歳	4 歳	5 歳
くつそろえ			
カーテン開け			
新聞取り			
はし並べ			
食器はこび			